

よろこび

日蓮宗 開聖会

本山 妙顕寺

長春山 本誓寺

『よろこび』五十（幸福とは何かの再考）

貫首 齊藤 日軌

南無妙法蓮華経は自分のハイアールセルフともいえる主であり、師であり親である己心の積尊に仕える道である。この道は我が心の積尊を信じ、積尊のように生きることによって解脱する、成仏する道である（信解脱）。南無妙法蓮華経と唱え心に積尊を迎えよう。南無妙法蓮華経と唱えこの地上界を永遠の楽土としよう。それが日蓮大聖人のお教えくださった立正安国の理想である。

人間の幸福は神仏の心を心として人類同胞を救ってゆく、人類同胞を愛してゆく南無妙法蓮華経の道のただ中にある。



みおしえ

「放逸（おこたり）を脚（しりぞ）けし賢人（ひと）は智慧の高閣（たかや）にのぼりこころにうれいなくして憂（うれい）ある愚衆（ひと）をみおろすなり」と山頂に立つひとの地に在（あ）るものをみるごとく（法句経二十八友松園諦訳）賢者が精勵修行によって怠惰をしりぞけるときは、智慧の高閣（たかどの）に登り、自ら憂いなくして（他の）憂いある愚人も見下（みおろ）す。山上にいる人が地上の人々を見下（みおろ）すように。（法句経二十八中村元訳）

怠らず、精進して智慧を獲得すると、世間一般の人間の苦悩や迷いから解放されます。他人の悩みや苦しみを見ると、東京スカイツリーのような高いと所に登りそこから見下ろすと人の動きが良くわかるように、その人の悩みや原因や解決方法でよく分かるようになります。自分の立場から離れ、仏の立ち場にたってもものを見ることが大切でしょう。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え
放逸をしりぞけ
智慧の高みに登ろう

